中央有鄰学院広報誌

となりにいるよ

2022.04
Vol.35

発行：社会福祉法人 中央有鄰学院　発行日：2022年4月　第35号
ゆうりん　ほだか　ふれあいセンターおおだか　きょうわ
〒459-8003 名古屋市緑区大高台二丁目1718
TEL 052-621-2441　FAX 052-622-5509
http://www.yuuringakuin.or.jp　Mail：info@yuuringakuin.or.jp

施設長就任のご挨拶

北根 あづさ

4月より乳児院ほだかの施設長を拝命しました。中央有鄰学院が旧舎の時代から、初めは非常勤の心理士、その後職員として、法人の児童養護施設、自立援助ホーム、そして乳児院と、様々な年齢の子ども達との関わり、職員のサポートに携わってきました。

今回、施設長の任に就くにあたり、中央有鄰学院の建て替えと、ほだか新設のことを振り返ろうと思い、改めて当時の資料や法人の便りを読み返してみました。今では当たり前になっているこの素晴らしい環境が、とにかく「子ども達のために」と、先人の方々の智と想いの限りが尽くされた形であることを、強く感じます。子ども達が安心して生活できる環境、そして、乳児から自立まで一貫して「育てなおし」ができる養育の場を、と整備して頂いたおかげで、あれから12年経った今、子ども達の笑顔があふれる明るい施設に成長しました。

12年前、ほだかでは、新生児期からの小さな命を大人が協力して大切に守り育てるという、それまでの法人になかった新たな任務を授かりました。現場の体制がまだ整わない中、“命を守る”ということが、看護と養育のバランスをどう保つかという日々の葛藤や、職員間のやりとりの難しさに直結していた頃を思い出します。悩み、考え、話し合い、試行錯誤を繰り返しながら、ほだかの養育を少しずつ作ってきました。根本は変わりません。「子ども達のために」です。今では、目の前の子ども達に寄り添い、大人との愛着形成を重視し、家庭で当たり前の日々の営みを体験できるよう生活に工夫を、という、施設整備に込められた想いをいくらか実現できているのではないでしょうか。

法人全体で、乳児期から自立まで一貫した養育を、というもう一つの想いも実践中です。その一方で、社会的養育をとりまく考え方や方向性は時代と共に変化してきており、それに伴い、乳児院に求められる役割も多様化してきました。地域に開かれた施設を目指し、ほだかの開所当初から行っている子育て支援事業「ふれあいセンターおおだか」は、たくさんの地域の方にご利用頂いています。

さらに昨年度、乳児院の多機能化の一環として、里親家庭支援のモデル事業「ほだかの里」をスタートしました。“命を守る”日々に奔走していた職員が、ほだかと共に育ち、今では入所児童の保護者だけでなく、里親さんへの支援でもお役に立てるようになり、頼もしく思っております。ほだかの里事業は、皆様にご協力頂きながら、これから様々なことにチャレンジし中身を作ってまいります。

私も微力ながら、職員と一丸となって、目の前にいる子ども達の幸せな将来のために、一つ一つ取り組んでいきたいと思います。皆様のご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

暖かい春の陽気を感じられる
季節となりました。
卒業式や入学式での晴れ姿
とっても素敵でした
進級・進学、就職と未来に向かって
羽ばたいていく子どもたち。
人との出会いを大切にして、
楽しい思い出たくさん作っていこうね

ほだか

今年の春は少しのんびり屋さん
3月に入っても寒い日が
続いていましたが
ほだかの子どもたちは
元気いっぱい外で遊んでいます
梅や桜、いちご狩り等
春を満喫しました

ふれあいセンターおおだか

コロナ禍の生活となって2年が経ちました。ふれあいセンターでも開設前の室内・玩具の消毒、利用者の入室前の健康観察の徹底などコロナ感染拡大防止に努めてきました。

利用日・人数・年齢の制限をしての開設でしたが、現在まで多くの親子の方にご利用いただきました。制限人数を超えてしまいお断りする日も度々ありました。コロナ禍の中、誰もが不便の多い毎日を過ごしていらっしゃったと思います。

この様な状況だからこそ身近にある支援センターを利用し、お子さんを安心して遊ばせたり、お母さんもおしゃべりをしてほっとする時間を過ごされていたように思いました。

「コロナ禍でも毎日開設してくれてるので助かります。」と利用者さんの声を聞き、大変な時こそみんなで助け合い「話聞くよ」「一人じゃないよ」という気持ちで寄り添ってきました。

成長した子どもたちも、4月からは幼稚園・保育所に通うことになります。又新たな環境でのびのびと育っていって欲しいと願います。毎日元気な声と笑顔をありがとう。

自立援助ホーム

きょうわ

きょうわでは、入所中の児童だけでなく退所した児童への支援も大切にしていますが、元々退所児への予算はなく支援も限られていました。しかし、この度、頂いた御寄付は、退所児の支援に係る資金として活用させていただくことができるようになり、誕生日のお祝いや退所時の生活応援品など色々な形で子どもたちを見守り続ける支えになっています。この春にきょうわを退所して一人暮らしを始めた男児へは、すぐに使える生活応援の品として寝具を贈り、大変喜ばれました。

また昨年度は、助成金により、男子棟の廊下にカーペットを敷き詰め、暖房機器を設置することが出来ました。冬になると室内であっても震える寒さの男子棟でしたが、初めて暖かい冬を迎えることができました。子どもたちが帰って来た時にほっと落ち着ける空間になったことは本当に嬉しいことでした。その他にも備品の御寄付や食糧支援など、本当に多くのご協力をいただきました。

社会の中の多岐にわたる方々のご支援があって今日の運営ができていることを感じ、日々頑張る子どもたちにとっても職員にとっても大きな励みとなっております。

里親家庭支援センター

ほだかの里

ほだかの里では、里親支援専門相談員や里親会ピアサポーターなど里親支援者向けの研修や、里親さんへの子育て・生活支援を中心とした里親支援ボランティア「さとぽっぽ」の活動を始めています。

広報活動としては、ホームページの開設、ブログやSNSを活用した発信も地道に行っています。

そして、3月からは「さとカフェ」がスタート。里親さんが「ほだかの里」を訪れ、お茶を飲みながら少しでも心が軽くなる、そんな居心地のよい交流の場を提供しています。

また、啓発活動として、地元のショッピングモール「なるぱーく」で地域の人たちに里親制度を知ってもらうよう風船や啓発グッズ、リーフレットを配布しました。

開かれたフォスタリング機関として「ほだかの里」が皆様に愛され、頼られる存在を目指して、日々スタッフ全員で活動をしています。

さとカフェは、毎週月曜日に利用できます。

小規模児童養護施設

かえで

この春かえでは初めて、卒院生を送り出しました。卒院前には、ゆうりんのアパートを借りて、少しだけ一人での生活に慣れてきたところで自立し、4月からは専門学校に進学しました。

卒院して自立した子以外にも、中学校に入学、高校に入学と、様々な新しい環境での生活が始まった子がいます。

「中学生になったら勉強がんばるんだ」「高校生になったらバイトがんばって携帯買うんだ」と意気込んで、新しい環境にドキドキしながらも頑張っています。

また、かえでができてからずっと一緒に過ごした職員の退職がありました。

別れの日、寂しさを隠し切れず、涙を流した子もいます。一緒に遊んだこと、職員とケンカをしたこと、旅行に行ったことなど、楽しく過ごしたことを思い返したことと思います。

4月からは新人職員2人を迎え、新しい体制になりました。子どもたちも慣れるまでには時間がかかると思いますが、大きな出会いと別れを経て、更に成長してくれたらと思います。そのためにも、私たち職員も全力で子どもたちを支えていこうと思います。

小規模児童養護施設

けやき

コロナウィルスの流行により、とても窮屈な生活が続いていますが、そんな中、自分のやりたいことを見つけ、新たに習い事を始める子や、子ども会の行事に率先して参加する子どもたちの姿がありました。地域の方に声を掛けていただくことも多く本当にありがたく感じています。

この春、けやきでは卒業を迎えた子がいます。一人は高校を、もう一人は小学校を卒業しました。春にはそれぞれ進む道があり、ドキドキしている子どもたちです。社会人になる子どもは、「自分のやりたいことも見つけられたし、とにかく仕事を頑張りたい。時には、帰って来るからね。」と話してくれました。

いつでも戻ってこられる場所、また頼っていいと思える存在であるよう、これからもたくさん子ども達と話をし、切磋琢磨しながら、楽しく前向きに過ごしていけることを願っています。

小規模児童養護施設

あおい

この春から高校生になる男の子は、夏頃から塾に通い始め、だんだん受験生らしくなってきました。

長い戦いに、後ろ向きになる時もありましたが、最後まで頑張りました。無事、第一志望校への合格が分かった時には、安心して照れた表情を見せていました。新たな生活が始まるので、慣れるまでは大変かもしれませんが、卒業までサポートしていきたいと思います。

他の子たちも「今のクラスのままが良い」「早く6年生になりたい」「受験生になったら勉強する！」など期待と不安が入り混じっていますが、また子どもたちと楽しく、健康に過ごしていきたいなと思います。

厨房

「食でも行事を楽しんでもらいたい。」そんな思いで、厨房職員は食事やおやつを作っています。

行事食を作るのは大変ですが、子どもたちの嬉しそうな顔を見ると、やってあげたいことがたくさん浮かんできます。また厨房職員が関わるだけではなく、普段お世話をしている職員さんが作ったら子どもも喜ぶだろうなあと思うこともあります。

ほだかでは最近、ユニット調理や個別での食事作りに力を入れています。大好きな大人と美味しい物を作って食べて、いろいろなものを見て触って食べて…。そんな経験を重ねて、子どもたちはすくすくと成長しています。

施設での生活を振り返って

ゆうりん卒院生　石川　愛子

施設で生活をしてきたことを恥ずかしいと思ったことはありません。
それよりも、隠すことで結果的に嘘をついていることになるのが嫌ですね。

昔の施設での生活は、いろいろな行事や全体で取り組む行事が多く、みんなと何かをすることが楽しかったです。反面、「何で施設にいるのか」と悶々としていた時期もありましたが、退所してみて改めて、「ゆうりんでよかった」と感じています。

他の施設では、“遊びに行ってはいけない”とか“宿泊できない”という話を聞くため、ゆうりんは、卒院した後でも泊まれるし、食材も送ってくれるし、本当にゆうりんでよかったと思います。だから、寂しくなるとついゆうりんに来ちゃいます。でも最初の頃は、職員に迷惑がかかると思ってなかなか連絡できなかったです。正直に言えば、今でもそういう気持ちはありますね。

退所後は、一人暮らしをすることがとても楽しみでした。友達といっぱい遊べるし、門限なく遊べるし、自分のペースで生活ができると思ったからです。でも、ひとり暮らしはできればしないほうが良いと思っています。なぜなら、ひとり暮らしは、お金がかかって仕方ないからです。今でも生活は毎月ギリギリです。施設の生活で蓄えていた子ども手当も、引越しの費用・家具・家電・車校代でなくなりました。せめて、施設にいる時に、お小遣い帳はきちんとつけられるようになったほうが良いですね。ひとり暮らしをしてから家計簿をつけようと何度かトライしましたけど続きませんでした。

私はそういうことが苦手なので、できることなら、お金を管理してくれる人がいてほしいなって思います。銀行へ行けばお金があるということがわかっているので、欲しいものがあるとついおろして買ってしまうんですが、結局、後になって苦しくなってきちゃうんです。

学生時代も、大人になった現在でも、施設で生活をしてきたことは、隠すことなくオープンにしてきました。恥ずかしいと思ったことはありません。それよりも、隠すことで結果的に嘘をついていることになるのが嫌ですね。別に施設で生活していたことや親がいないことを伝えることで、無神経に根掘り葉掘り聞かれることもないし、むしろ頼れる人がいないということを相手側が知ることで、気に掛けてもらえるようになります。言わないでいると、病気になった時でも、「家族がいるから大丈夫」と思われて、手助けしてもらえません。だからといって無理に言う必要はないし、言いたくなければ言わなくても良いし、仲間内だけに伝えるだけでも良いと思います。

退所してつくづく感じていることは、ゆうりんのご飯は本当においしいということです。ひとり暮らしをするようになると、やっぱりゆうりんのご飯が食べたくなるんですよね。これは、卒院生あるあるみたいですけど…。

私は、大舎だった施設での生活が長いので、施設の小規模化でどんどん地域に出て行くことが、皆がバラバラになっていくようで寂しく感じています。せめて、退所後の集まりの時にいろいろな昔の職員さんに会えるといいなと思っています。

正月には、昨年完成した、有鄰学院山小屋「あおむし」に卒院生が沢山集まって楽しく賑やかに過ごすことができました。

職員紹介

ゆうりん　高橋　和史

Q どうして児童養護施設で働こうと思ったのですか？

大学で勉強するまで児童養護施設を知らずに生活していました。実習や勉強を通して、子どもたちを自立に向けて支援していく仕事だと知り、施設の中でも家庭的で温かい生活ができるように支援したいと考え働こうと思いました。

Q 実際に働いてみて感じることはありますか？

子どもとの信頼関係の形成の難しさです。生活の中で子どもにやってほしいことやらなければいけないことを伝えますが子どもによっては聞かなかったり、試し行動がでて対応に困るときがあります。しかし、それは当たり前のことで子どもからすれば知らない人に話し掛けられれば警戒もするし、ずっといる職員の方が安心だと感じると思います。

私も子どもたちにとって、安心し信頼できるような職員になるために、焦らず日々努力する必要があると感じています。

Q ゆうりんで働いて良かったと思うことはなんですか？

子どもの成長が見られた時です。職員として、それぞれの子どもにあった声掛けや支援をしていますが、簡単に成果はでません。日々の積み重ねで、子どもの成長する姿が見られた時にやりがいを感じています。

Q お休みの日は何をしていますか

休日はランニングをして体力をつけつつハーフマラソンに参加するため頑張っています。その他は趣味のゲームを楽しんだり、外出して服を買いつつ美味しいご飯を探して食べに行きます。

Q 最後にひと言！

まだまだ未熟者ですが、常に子どもの最善の利益を考え、支援できる職員になれるように頑張ります。

ほだか　酒井　望帆

Q 自己紹介をお願いします

2年目の保育士です。好きな食べ物はお寿司で、特にトロサーモンが大好きです。苦手な食べ物は玉ねぎです。厨房さんが作ってくださる美味しいご飯によく使用されている為、少しずつ克服しつつあります。

Q 仕事で楽しいと感じる時は？

子ども達の楽しそうな笑顔を見ると、私も楽しい気持ちになります。その中でもユニット外出でユニットの職員や子ども達と一緒に動物園や水族館などお出かけをする日は、私自身もとても楽しみにしています。外出先で自然と鼻歌を歌っていたり、乗り物に乗って嬉しそうな表情をしていたり、フクロテナガザルに泣かされたり、子ども達の反応の一つ一つがとてもかわいいです。

Q ほだかってどんな印象？

施設内外の研修や、自主勉強会、OJT等、学ぶ環境がしっかりしていると感じていますし、先輩職員さんは、質問や疑問に対していつも優しく答えてくださいます。学ぶ環境がしっかりしていることで、安心感や自信に繋がると感じました。今後も学の姿勢を大切にしていきたいと思います。

Q 休みの日は何してる？

インドア：アウトドア＝7：3なので、基本は家でゴロゴロして過ごしています。出かける時は綺麗な景色を見ることが好きなので、海や季節の花を見に行きます。綺麗な景色を見ると心が浄化されますし、私のストレス解消法になっています。また、ペーパードライバーの為、はやくほだかの子ども達を乗せて外出できるよう練習をしています。

Q 最後に何かひと言！

1年目は、毎日の業務に必死でした。しかし、振り返ってみると、人生で1番と言っても良いくらい、幸せと愛しさを感じた1年でもありました。これからも子どもたちと過ごす毎日を大切にしていきたいと思います。

ご支援ありがとうございました

令和3年10月1日から令和4年3月31日までに、寄贈・招待・ボランティア活動にご協力いただきました方々のご紹介をさせていただきます。紙面の都合上内容は省略させていただきます。（順不同・敬称略）

【寄贈個人】
松山信　柴田浩充　柴田美和　山口ミツノ
小椋寿男　浜島四郎　菖蒲弘明他5名
早川富雄　久野すみ子　深谷まみ　田中尚己
宮地由香　近藤雅裕　武藤理奈　山口和子
加藤幸男　谷本美枝子　沓名章　榎本卓純
瀬川卓也　杉山かをり　一杉治夫　本田和也
松田侑加　北野方子　吉長敦子　重森ゆう子
ジェイムスヘイブンス　イヌカイ　川瀬喜世美
山口保　村知梨紗　小川康一郎　堀場繁樹
余語宗紀　西畑陽子　乃亜　町屋修太郎
クリシュナン　石川えりか　門司一徹
佐藤孝介　中澤理恵　亀井麻由美　川島有和
松村敏幸　中島香澄　太田圭　久保広太郎
小倉英嗣　野本怜瑞　高橋智之　鈴木伊代梨
森山陽介　古賀妙子　森那彩利　柳瀬かほり
たていし　井上さやか　御山綾乃　西口玲
RieMachin　清水春佳　都竹有美　金田和久
平野基子　松下紗耶　山中文人　近藤弘規
浜島光子　中上純二　佐藤さやか　野田綾子
服部美也子　長瀬幸恵　国実悦子　丹羽博久
小山泰弘　高橋宏斉　岩本光弘　河野綾子
川村雅一　杉江侑子　山口恭平　山口紗代子

【ボランティア個人】
鈴木沢香　山田小夏　本田光　内田汐音
柴橋佳幸

【寄付個人】
三治正子　石井祐治　中島光利　長江和子
長江謙二　長江真克　河西ヒロ子・知子
川辺清次　新留好美　服部彰　町野芳恵
山口裕　若尾かね　加納悟　近藤加代子
朝倉絹代　佐々木やえ　山口浩導　堀川道子
柳沼勉　近藤幸江　田島紀美子　小川康之
間瀬高歩　宗吉美雪　田中直子　仲野禮子
毛受小夜子　安田訓明　坪田節子　三浦和人
山口実　小田義信　後藤順生　後藤節子
後藤雪江　斎藤礼子　伊藤壽重　水野太久蔵
玉利洋介　持橋いくよ　山岸せい子　森政樹
藤川尚士　上村優子　中川和也　丸山圭子
土居万里子　山口紘一　萬羽聡子　丸田優子
紙屋祝子　安井洋子　長島晴美　西川協治
牧真吉　朝倉夏雄・建子　柴田周平　鈴木享
一杉治夫　匿名

【寄贈団体】
中部善意銀行　光ネットワーク協同組合
ゼンショーライス　名古屋食糧　文創
NTTビジネスソリューションズ
名古屋ビジネス営業部　ノースガイア
グループエスカラデー　ブレッシングス
名古屋市文化振興事業団　尾州商会
ヒルズウォーク徳重ガーデンズ店
生活支援機構ALL　カカオの木
コカ・コーラボトラーズジャパン　包む
CS V推進部コミュニティリレーション課
学生服のイトウ　トヨタカローラ名古屋
セブンーイレブン・ジャパン　ユウシン
名古屋グランパスエイト　チーカス
全国シャンメリー協同組合　nico
JAあいち経済連　資生堂福祉事業財団
オールドリバー　更生保護女性会
ミライプロジェクト　ワイドワン
AICHI-TECH協同組合　日本鏡餅組合
フォレストファーム　ベビーフード協議会
名古屋食肉三水会協同組合　ワイグループ
名古屋名南ロータリークラブ　小島歯科
愛知県警備業協会青年部会　アサヒビール
ソロピッツァチェザリ　愛知県共同募金会
CBCチャリティー募金事務局　ナカバヤシ
ドミノピザ左京山駅前店　一歩の会
ムーンバット経営企画・リスク管理室
MISSAO APOIO TOKAI　心Reborn協会
緑区地域女性団体連絡協議会　緑鯱城会
リノジオプラス　メルパルク名古屋
愛知日野自動車　東芝中部支社　豊田通商
フジトランスコーポレーション　タキヒョウ
日本教文社　中日新聞社会事業団
SAT-BOX　緑学区福祉推進協議会
三菱UFJ信託銀行　shinjoプロジェクト
チュチュアンナ1％クラブ　連合愛知
沖玉エンジニアリング　KEIZ大高店
名古屋名南ロータリークラブ
カーブス大府勤文前店　NIPPO中部支店
人身取引被害者サポートセンターライトハウス
愛知県信用農業協同組合連合会
愛知県労働者福祉協議会　名古屋証券代行部
名古屋市子ども青年局福祉課
トヨタモビリティパーツ労働組合
名古屋市大高瀬木南土地区画整理組合

【寄付団体】
霊友会「ありがとうこだま基金」
エスティケー　東亜ライン　池田物流
ニッセツ　アジャスト　大橋製作所
㈱井上紙店　日本誕生花セラピー協会
名古屋商工会議所　守山商工会　鳴海商工会
有松商工会　小島歯科　冨士ダイス
カトリック聖マリア在俗会　Tartaruga
セブンイレブン名古屋大高南店
豊明損保センター　ジャパンフォレスト
ミライプロジェクト　エコポリス
インテリアヤマカワ　圓導寺　愛知山岳会
瀬木川南有志　日本児童養護施設財団

【招待・ボランティア団体】
熱田神宮　鳴海教会　シュリンプ

令和3年11月に有鄰学院山小屋「あおむし」が完成しました。ご支援・ご協力ありがとうございました。

COLUMN

子どもが懐くとか懐かないっていうのは、「相性」だって言う人がいますが、本当のところはどうなんでしょうか。もちろん、そういう側面があることは否定できません。でも、それってあくまでも本人の感じ方でもあるように思うんです。

特に、仕事で子どもの育ちに関わる人が「相性」を理由に関わり方を変えてしまうようなことがあれば、それは残念だなって思うんですよね。

もちろん、「合わない」「懐かない」と感じることはあるかもしれません。それでも、温かく穏やかな〝まなざし〟を向けて、「そのままでいいんだよ」と受け入れられるといいなって思います。

社会全体で子どもを育てることの本質がそこにあるんじゃないかなと思っています。